

「メダカの卵を配布する(1)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

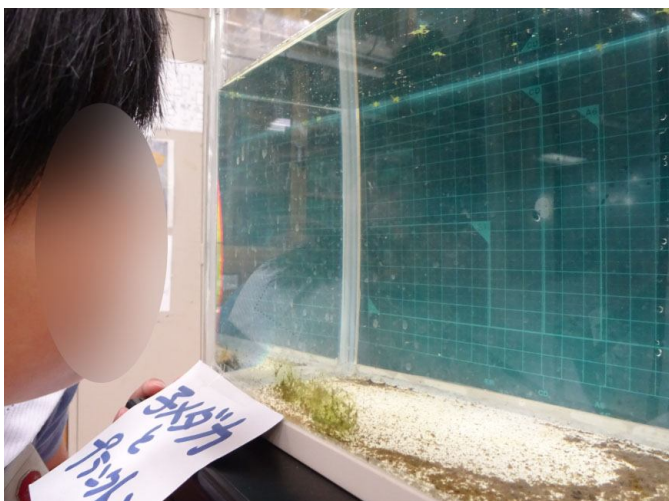
お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

メダカは学校の教室で飼うのが良い。私の場合、理科室(実験観察室)と自分のクラスの両方に、メダカの水槽を置いている。



理科室のほうはいつも「観察者」で混み合っている。5年生に観察してほしいのだが、当然4年生や6年生も熱心に観察にやってくる。単にメダカの稚魚が泳いでいるだけなのだが、それが面白いのだ。



まだメダカが小さいこともあって、中にはエアレーションも、フィルターも入れていない。水は水道水汲み置きに、校庭の池の水や泥を足してあるだけである。メダカが小さいうちは、これだけでほとんど餌を与える必要もない。泥や水の中のプランクトンだけで、十分に栄養を摂取できるのだ。水槽の中とはいえ、自然の池に近い環境と言えるだろう。背後には、目盛り付

きのカッティングマットを置いてある。透明で白っぽいメダカの稚魚を見やすいのと、大きさもわかるので便利である。稚魚は現在 100 匹ぐらいいる。



こちらは教室に置いてある水槽だ。コンテナボックスの小さいものに、水、水草、池の泥を入れてあるだけだが、稚魚は非常に元気に泳いでいる。これも自然の池に近い環境なのだろう。こちらは 50 匹ぐらいを飼っている。

教室で飼いながら観察するメダカとは別に、私は5年生の子どもたちに、メダカの卵を配布することになっている。配布の一週間ぐらい前に、こんなお手紙を配っておいた。こうしておく、何十人と子どもたちが同時に押し寄せても、非常に短時間で配布することができる。さて、当日の「配布会場」はどんな様子だったのだろうか？

希望者にメダカの卵(受精卵)を配布します。

※1人2個を予定しています

- ・配布日 ; 6月20日(水) 中休み
6月21日(木) 中休み
- ・配布場所 ; 北緯 35 度 43 分、東経 139 度 44 分
- ・持ってくるもの ; 前の日に水道水を入れた、きれいな容器(密閉可能なもの、記名済)。
- ・LG21(R1)の容器が最適、小さなチャック付袋でもOKです。大きい容器だと、メダカの卵を見失います。
- ・えさは、「メダカのえさ」を細かくすりつぶしてほんの少し与えます。食べ残しはスポイトで除去します。
- ・コップで飼えます。水は水道水汲み置きでOKです。孵化したら、3日に1回ぐらい、水を半分とりかえます。
- ・水草(「キンギョモ」や「マツモ」=ペットショップで売っています)を入れると、元気に育ちます。